◆経済倶楽部講演会第4484回（2月2日）

2024年日本経済の展望と課題

日本経済研究センター研究顧問　小峰（こみね）隆夫（たかお）

＊「新しい平時」を迎えた日本経済
＊1％前後の緩やかな成長が続く
＊ほぼなくなった需給ギャップ
＊相変わらず低い日本の潜在成長率
＊世界経済のリスクは米中の景気悪化
＊中国経済の問題はどこにあるか
＊想定超えるインフレ定着の背景
＊実質賃金が上昇するメカニズム
＊金融政策より輸入物価の上昇が奏功
＊プライマリーバランスの黒字化について

山縣　それでは開会いたします。（拍手）

今日はたいへんお寒い中、皆さんお集まりいただきましてありがとうございました。

本日は小峰隆夫先生に来ていただきました。皆さんご承知のように、先生は経済企画庁に入られて、経済白書を作る内国調査第一課長を経て、経済研究所長、それから調査局長などを歴任されておられます。経済企画庁には歴史的に名だたるエコノミストがたくさん出ておりまして、私ども記者としてはたいへんお世話になった方々が多いんですけれども、小峰先生もその列の、山脈の中に連なるお一人でいらっしゃいます。

『週刊東洋経済』に「経済を見る眼」というコラムがありまして、いちばん初めの看板コラムで1ページなんですけれども、これは長年読んでいただいていて、視聴率も非常に高いところですが、実は小峰先生にもずっとこの欄を書いていただいております。私も一読者としてこの欄をずっと読ませていただいているんですが、経済の論調というのも、いつもいろいろな風潮があったり、俗説がはびこったり、かなり混乱するんですけれども、先生のコラムを読むと頭がすっきりして整理されて何か安心するというような感じで、いつもそのことは本当か？という観点から理論的に書いていただいております。

それから、先生は最近、『私が見てきた日本経済』という本を日本経済新聞出版社から出されていらっしゃいます。これは自伝的に書かれているんですけれども、経済の話はもちろんで